

---

# 移住・定住環境整備 プロジェクト

MISASA

WAKUWAKU

令和8年度～10年度  
実施計画資料

---

“縦割り構造”と“情報の分断”が定住促進のボトルネック。

●現在の課題

- ✓ 空き家・子育て・教育・農業・起業の取組は分野ごとに蓄積
- ✓ 縦割りにより、町の暮らしの全体像や相談先が見えにくい
- ✓ 空き家バンクは事務負担・相談導線の弱さから利活用が進みにくい
- ✓ 町の魅力や情報が点在し、移住検討者に届きにくい



分野ごとに点在する取組や情報を横断的に整理する。



空き家利活用・相談導線を改善し、定住の基盤を強化する。



町の暮らしや取組を編集し、わかりやすく可視化する。



将来的に町の特徴を体験できる事業へと発展させる基盤をつくる。

### R10年度

- ・「町の未来ビジョン書」完成
- ・分野別アクションプラン確定
- ・各担当課、関係機関との実行体制整理
- ・ビジョンの共有→町が進む方向を公式化

### R9年度

- ・R8の素材を元に強みを体感できる時間を提供
- ・町民、関係機関とのラウンドテーブル
- ・仮ビジョン／アクションプランの輪郭を作成

### R8年度

- ・若年層へのアプローチ強化
- ・三朝町の強みを可視化
- ・住環境の基盤整備

 **子育て**

妊娠中・乳幼児を育てる世帯

 **農業**

新規就農を検討する若者  
(専業・兼業、問わず)

 **教育**

新たな一歩を踏み出す世代と  
学びを支える大人

 **住環境**

所有者

 **商工**

起業、創作、サービス提供を  
小さく始めたい者

メインターゲット  
39歳以下の若者※  
+  
各分野のサブターゲット

※子供・若者育成支援推進大綱@令和3年4月／子ども若者育成支援推進本部発行に基づく

“実行主体を増やす事業”ではなく「構造を整える事業」

1



農業を軸とした  
移住体験

2



町の暮らし  
取組の可視化

3



住環境整備



## 「食」を軸とした取組や関心が高い町

- 給食の地産地消率が高く、三朝米などの地域資源が活かされている
- 田植え体験など、農業に触れる校外学習が継続的に行われている
- 子育て・教育・農業の取組が、食を通じてつながっている

これらを踏まえ、町の実情や特色と親和性の高いテーマとして「農業」を入口にした移住体験ツアーを実施する。





町の暮らしや取組を、分野別に整理・編集し、  
三朝町での暮らしの全体像が伝わるZINE形式として可視化する。



●  
プロセス

制度説明や観光PRではなく、  
考え方や暮らし伝える編集物

プロジェクトマネージャーが  
分野横断のハブとなり、  
関係者との対話を重ねる

●  
完成後

担当課・関係機関の共通理解資料

町民・若者世帯への共有ツール

移住検討者の入口資料

令和8年度の事業内容②  
町の暮らし・取組の可視化

7



定住の基盤となる住環境について、空き家バンクを中心に情報と運用の見直しを行う。

POINT

1

情報動線の整備

誰に・何が・どう届くかを明確化します

POINT

2

UI・UXの改善

見易さ・分かり易さを向上させます。

POINT

3

運用フローの見直し

相談から公開までの負担を軽減します。

住環境情報はZINE（冊子）化せず、Webを中心に即時性・更新性を重視。  
あわせて、空き家所有者に直接届ける冊子を作成し、利活用や相談への理解を促す。

令和8年度の事業内容③  
住環境整備

8

分野ごとの取組が整理され、定住環境の**全体像が共有**される。

空き家利活用・移住相談の**初動がスムーズ**になる。

担当課・関係機関の連携と**共通認識が進む**。

町の暮らしや関わり方を具体的に**イメージできる**ようになる。

**次年度以降**の体験型・交流型事業へ展開できる**土台が整う**。

